

委員会だより

< 11月9日(日) 11名出席 >

- 10月度会計報告(甲斐委員)
 - ◆ 一般会計: 支出 → スリッパ購入(26,145円)
 - ◆ 建設会計: バザー券収入(250,000)と聖母の園からの寄付金(50,000)を建設会計に入れる。
なお、信徒会計に余裕があるので、あと200,000円を建設会計に入れて合計500,000円を建設会計に移すこととした。
⇒ 委員会了承 建設会計については、借入金の返済終了後どうするか今後検討が必要。
 - ◆ バザー収支(揭示資料参照)
 - ・ 収入: 577,944 (抽選券250,000、婦人会300,624、壮年会27,320)
 - ・ 支出: 70,885
⇒ バザー収益: 507,059
 - ・ その他収益: 67,000 (聖母の園50,000、婦人会17,000)
⇒ 収益合計: 574,059
 - ・ 寄付予定: 婦人同志会へ20,000、その他別途継続検討する(バザー収益合計は寄付金送付先検討結果に基づき確定)
- クリスマスに向けての準備
 - ◆ 赦しの秘跡の日程についての検討 ⇒ 12月13日(土)午後2時から、黙想会のかたちで実施することに決定。
 - ◆ 大掃除の日程: 12月20日(土)午前10時から実施。
 - ◆ クリスマスパーティ: 従来通り24日夜ミサ後に行う(予算:5万) 深夜ミサは12月24日(水)午後8時～ 日中ミサは12月25日(木)午前10時～
- 典礼奉仕に関する話し合い
 - ◆ 今後、典礼関連の奉仕にできるだけ多くの方に携わってみたい。⇒ 例会で趣旨を説明し、奉仕できる人を募る。
- 前庭の垣根土止め工事をする(三回くらいに分けての予定)
 - ◆ 前庭でやるので、壮年会、青年会の手伝いをお願いしたい
- 教会玄関口のスロープ部分の滑り止めおよび両側の手すり工事・・・下村昭子さんが雨の日にすべって大怪我されたのを受け、標記工事につき検討してみることにした。
- バザーの反省
 - ◆ 焼きそばがあまりに時間がかかり過ぎて、食券を返しに来る方が多かった。それも外部の方が・・・
⇒ 今回は注文が予想外に多かった。
⇒ 肉を茹でておく等も以前試みたがうまくいかなかった。
 - ◆ 輪投げは商品がなくても、どんどんやらせた方がよかった。

壮年会だより

< 11月16日(日) 11名出席 >

- 11/9 教会委員会報告(詳細は広報なかわだ)
- 12・1月聖書朗読・共同祈願・奉納者(別項参照)
降誕祭は典礼委員のご指示。1月以降は、12月に決定。

3. 審議事項

- (1) 教会委員会からの要請事項
 - a. 前庭の垣根土止め工事日程 ⇒ 12月20日(土)大掃除時
 - b. 聖堂玄関前スロープの滑り止め工事案・・・滑り止め工事は必要と思われるが、妙案はない。委員会に委ねる。
 - (2) 壮年会関係
 - a. 来年度の聖書朗読者・サロン担当者・案内係の検討
 - ① 聖書朗読者
「今年度は第一と第四日曜日の朗読を年間で決定し、9月以降の第3・第5は例会で翌月分を決定した」。その実績から来年度の聖書朗読は壮年会全員で、輪番制で行う。
 - ② サロン担当者
チーフはベテランの七浦さん・橋さんに担当して頂く。サロン担当者2名は壮年会全員で、輪番制で行う。
 - ③ 案内係・・・東原さんに引続きお願いします
☆案内に対するご意見をお待ちしています。
 - b. 来年度行事予定の追加・変更の検討
☆基本的には15年度実績と同様に計画する。
☆平成16年1月広報寄稿者は小谷さんに決定
- 審議結果:** 15年度の聖書朗読は総会の了承を得、朗読の実績あった方々の輪番制で行なっています。来年度は、グルニエ主任司祭の「教会の仕事は、信徒全員で分かち合って欲しい」との意向に沿い、壮年会担当の聖書朗読・サロン担当等をご病気の方を除き、壮年会全員の輪番制で行います。尚各位への詳細連絡は、12月に「壮年会だより-第2号」(次回例会で内容検討)を発行の予定です。

4. 報告・連絡事項

- (1) バザー結果: 壮年会収支結果 27,320円利益
- (2) 11/15(土)秋の弘法山ハイキングは7名参加。今回は大勢の参加を望みます。

婦人会だより

< 11月16日(日) 30名出席 >

1. 委員会報告
2. 来年度役員の選出
今年度同様、人数が満たなくても、とにかくその人数でやってみる。なお、バザーの奉仕日とか準備に関する意見も出されたが、次年度の継続検討事項とする。
3. お知らせ
 - ① 典礼関連の奉仕ができる方は(主日ミサのお手伝い、冠婚葬祭のお手伝い)、用紙が掲示してありますから、進んでお名前を記入してください。
 - ② 小野イク様、下村昭子様のご入院中です。霊的花束のお見舞をさしあげました。
 - ③ 婦人同志会黙想会:11月20日(木)カトリックセンターにて。
【次回例会は12月21日(日)当番はB地区です】



広報 なかわだ

第296号

2003年 12月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
平成15年12月7日

12月の予定

委員会	12月 7日
壮年会、婦人会	12月 21日
黙想会・赦しの秘跡	12月 17日 am.10:00
大掃除	12月 20日
主の降誕深夜ミサ	12月 24日 pm.8:00
レジオ	12月 12, 19日



最初のクリスマス、それは教会の雰囲気!

主任司祭 ジャック グルニエ



主キリストの誕生を物語ってくれるのはエルサレム初代教会の仲間たちです。彼らが週に一回、日曜日の朝に《パンを裂く式》(ミサ)を必ず行うようになってからおそらく数十年間が経っていました。共にいるイエスとの絆をさまざまに活かしながら、わたしはあの時のベツレヘムを襲った暗い夜を《主日》の光で照らしはじめた信者たちがルカの第二章を形作つたに違いないと理解できます。

『主の降誕』の場面は教会の集いに一番似ているのではないかと思います。馬小屋の場で登場する人物、そして天使も、実はキリスト信仰者が大切にしてきた活動そのものを見事に描いているのだと思います。マリア、ヨゼフ、そしてもちろん幼子イエスご自身が真ん中にいて、感謝の心で、救い主と親しく結ばれて祈ります。こう書いてあります。「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」。羊飼いたちは、神さまご自身に、またおおいに歓ぶ天使たちにも呼び集められて、大変びっくりしながら、体験したことのないような相互関係に目覚め、またひとつになる心を味わいながら《聖家族》に加わります。そのうち、すぐ野原へ戻る(帰る)のですが、そんな時こそ生き生きと「天使が話してくれたことを(多分今まであまり関わりのない)人々に知らせた」のです。その夜の野原とは、わたしたちの集まる《サロン》と似ているのではないかと想像します。どこにも楽しい交流の音が響きます。羊飼いたちが同時にダビデ王など、救いのみ業を思い起こさせた上で、互いに信仰教育によく努めるのではないのでしょうか。

ところで、教会の日々の営みにおいて一番中心的と認められる四つの事柄について、同じルカ福音史家が「使徒言行録」の中で次のように紹介しています。「信者たちは使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。そして多くの不思議な業と行われていたので、民衆全体から好意を寄せられた」と。

皆さん、わたしたちもキリストにおいて、上に述べた四つのことを中心にしなが、見事に行動し続けることができるように、主の降誕を見つめながら、互いに仕え合って、教会を支えていきましょう。

よいクリスマスをお迎えください!

ミサ当番表 (2003年12、2004年1月)

月/日	主日	朗読・奉納	共同祈願	侍者	オルガン	月/日	主日	朗読・奉納	共同祈願	侍者	オルガン
12/7	待降節第二主日	鈴木・青柳	鈴木	石井(拓)	岩 渕	1/4	主の公現	壮・丸田	壮年会	石井(大)	保 科
12/14	待降節第三主日	青年会	青年会	石 崎	森 田	1/11	主の洗礼	青年会	青年会	石井(拓)	岩 渕
12/21	待降節第四主日	東原・上野	鈴木	下迫(瑠)	保 科	1/18	年間第二主日	壮・松田	望月	石 崎	森 田
12/24	主の降誕				岩 渕	1/25	年間第三主日	壮・小野(和)	壮年会	下迫(瑠)	保 科
12/28	聖家族	竹内・鈴木	竹内	下迫(佳)	森 田						

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏: Tel 802-6258)迄お申し出下さい。

お知らせ

初聖体(11月23日) おめでとう!

刈ー・クリスティーナ 石井麻莉奈ちゃん
フランシスコ・アシジ 内田臨太郎ちゃん
マリア・ガインセンシオ・チャッチ 美底夏織ちゃん

クリスマスミサ、パーティー

深夜ミサ 12月24日(水) 午後8時から
(ミサ後パーティー)
日中ミサ 12月25日(木) 午前10時から

黙想会・赦しの秘跡

12月13日(土) 午後2時から



入門式(11月30日) どうぞよろしく!

伊丹 信敬さん
森下 孝枝(ゆきえ)さん
大宮 ひとみさん
中村 幸子さん

大掃除

12月20日(土) 午前10時から

泉区民クリスマス 12月23日(火・祝)

お祝い会 午後2時～4時 泉公会堂にて
キャロル 午後5時～5時30分 相鉄コンコースにて



私にとってのデイサービス

内藤 和子

「あの一、Nさんのお宅ですか？ デイサービスのAです。実は今、利用者(私達はお年寄りをこう呼びます)のZさんから、Nさんの言葉で傷つけられたと電話がありまして・・・」。

A所長の言葉を聞きながら、頭をガーンと殴られたような気がしました。同時に、その日はZさんとは普通に会話をして、笑顔で玄関までお送りしたのに、何故!と思ひながら、悩んでしまいました。

週2回ほどのパートで、この仕事を6年近く続けていますが、私には初めての出来事でした。でも、ほんとうは、知らない間にたくさんの人を私の心無い言葉で傷つけていたのでしょう。ただ、今までの人はなにも言わないでくださったのだと思いました。

デイサービスで働き始めた頃、私はお年寄りの笑顔がうれしくて(本当に寂しそうな人が多いのです。そして、デイサービスがもしかしたら最後の外出先となるのではと思う場合があります)、たくさんのお年寄りから“元気”をもらっていました。また、いつの日かあの世にいる父や母に会ったときに、「お父さん、お母さんには優しい言葉をかけることができなかつたけど、代わりに、よそのお年寄りには少しは喜んでもらえるような仕事をしたわ」と言いたくて、いつもその日を楽しみにしているのです。

最近の私は、この仕事に緊張感もなくなり、もう老人の仕事は辞めた方がいいのかなと思っていました。この件の次ぎの日、聖書の勉強会があり、前の晩に眠れなかった私は、神父様や教会の方に私の失敗を聞いていただき、気持ちが楽になりました。(信仰をもたない友人は、私を単細胞だと笑っていましたが・・・)

ふだんは下宿人のような家人たちも、あれこれ心配してくれて、自分たちの仕事での失敗を話し出し、そうなんだ、みんな外で苦労しているのだ、とあらためて分かり、いつも感じたことのない絆というか、感謝というか、神様にお礼を言いたくなるような気分になりました。

いろいろなことを思いながら、電話の後すぐ、Zさんのお宅にあやまりに伺いました。その時、デイサービスの時とご自宅でのZさんの態度の違いにビックリしてしまいました。でも、言い訳は許されませんので、A所長のうしろで頭を下げているしかありませんでした。

一週間後、Zさんにどんな態度をしたら良いのだろうと、朝から一人で悩んでいましたら、いつもは私達から話し掛けないとお話しをしないZさんが「足を火傷してネエ・・・」とご自分から私に話し掛けてくださり、ホッとしました。神に感謝!でした。

「神様、今日も一日、利用者の方々がこのデイサービスに来てよかったと思えるような日にしてください」と心で祈りながら、その日もいつものように始まりました。

弘法山ハイキング



壮年会

11月15日(土)曇天の中(予報は「午後から雨」)、「気が若〜い7名」は秦野駅を力強く歩み始め、「弘法山登山口」で山田リーダーの指導で筋肉を伸ばし、最初の難関「急な階段」を一枚・二枚と衣服を脱ぎ、汗を拭き拭き突破し、「あずまやのある浅間山展望台」に出た。振り返ると、さっき歩いてきた水無川とイトーヨーカ堂を中心に秦野の街が広がっていた。

弾む鼓動を静め、やや緩やかな「権現山の階段」に挑戦した。「やれやれと見上げる」と2001年1月建立された「権現山の展望台」の真下に居る。更に一登りして、千畳敷の山頂に出た。相模湾が望めると言うが今日は残念。小休止後、多少アップダウンのある登山道が続き、両側には「あざみの花」が点々と咲き、何時しか懐かしき「あざみの歌」(昭和のお嬢様方のコーラス)口ずさみながら、標高235mの弘法山に辿り着いた。山頂には弘法大師木像が祀られる「大師堂」、白く濁り乳の香りを漂わせた水が湧き出たとされる「乳の井戸」等がある。弘法山を下り、滑りやすい所や木の根が張り出した歩き難い山道を、手頃な倒木を杖にしたりして皆は慎重に約一時間下った。

大和武尊(やまとたける)伝説のある「吾妻山」の休憩所にて昼食を広げる。運動をした後・空気の美味しい所での食事に満足し最終地点に向った。同じような道を下り湯煙の揚がる鶴巻温泉街に出た。「温泉に入りたい」欲望を抑え、小田急鶴巻温泉駅に着いた。4時間のハイキングは「全員無事完歩」した。



行ってきました。「ザビエル祭」へ

岩崎 好愛

朝から雲がたれこめて寒い日でしたが、早起きをして、お仲間10人と共に東京神学院の「ザビエル祭」に行ってきました。現在高野助祭さんが学んでいらっしゃるということもあって、みなさん初めてでしたが、心はずませて向かいました。

10時からの聖フランシスコ・ザビエルを記念するミサにやっと間に合い、聖堂からあふれて玄関広間や芝生の庭にもいっぱいの人々の後ろについて、どうやらミサに与かることができました。鶴飼神父様、上杉神父様、森田神父様のお顔も見えました。ミサの後、山崎神父様が、ボランティアの方に連れられて、松村神父様と共にお見えになっていらっしゃる聞き、早速みんなで控え室にお訪ねしました。神父様は顔をなみだでくしゃくしゃにして喜んでくださいました。



会場にはバザーのように食堂や売店が並び、お手伝いの方たちに交じって神父様や神学生がエプロン姿もかいかいしく働いていました。私達は上杉神父様が自らストップウォッチ片手にゆでられたというスパゲッティを食べ、高野助祭さんが担当の「ザビエル書房」で古本をあさりました。すてきなクリスマスグッズを手に入れて満足げな仲間もいます。休憩所でお茶を飲む私達のところに来られた上杉神父様は、「中和田教会の三分の一が来ましたね」と冗談をおっしゃって、親しく交わってくださいました。

また、院内ツアーもあって、神父様や神学生の生活部分も覗かせていただきました。狭いながらも個性的で、ユーモアも感じられるお部屋もありました。高野助祭さんのお部屋もちょっとのぞかせていただきましたが、どちらかというと、きれいに片付いていた方でしょうか?(失礼しました!)



最後は、芝生の庭に輪になって集まり、神様に仕える方々の召命のために、みなで心を合わせ祈り合って終わりとなりました。神様の呼びかけに答えて、一人でも多くの若者たちが信仰を育みながらここを目指して歩んでくださるように、これから一層熱心に祈りを続けたいと思ひながら帰途につきました。



子供の四季

つかはら 黙思

混乱と退廃した世の中は、子供達の生活にまで悪影響をもたらしております。でも子供の世界を覗いてみますと、ほほえましい昔ながらの元気で平和の姿がたくさんに残っております。

「神様、すべての子供達に平和で健康な日々をお与え下さい。そしてお導きにより、御旨にかなった人間として、又社会人として成長しますように、お恵みをお与え下さい。アーメン」

ほらそこに子の指先に露の臺
少女らのスキップたのし春隣り
子らが追ふ蝶後になり先になり
子が祈る聖母の像に春の風
列つくる子らのリュックに風光る
子が吊す照るてる坊主梅雨長し
手火花や明日またねと子ら帰る
夜祭りへ浴衣の娘らの楚々として
風花に雪降れと子ら駆けまわり
栗の毬蹴り蹴りゆくや男の子
霜柱踏みつけ蹴ちらし子らはしゃぐ
絵ローソク囲み園児のクリスマス

4本のローソク

みなさますでご承知のとおり、待降節に入った11月30日の日曜日から、祭壇に4本のローソクが置かれ、クリスマスを待ち望みながら日曜日毎に一本づつ火が灯されます。このローソクは、実は福島さんがこどもさんたちと一緒に、去年のご復活のローソクから作ってくださったものなのです。世の光であるキリストのお誕生を待つにふさわしいローソクですね。一本一本火を灯しながら、心を合わせて『その日』を待ちましょう。

